

長島町地域包括支援センターだより 「No.6」

認知症予防シリーズ④

認知症への対応

認知症は誰にでも起こりうる身近な脳の病気です。社会全体で認知症への理解を深めましょう。

認知症の人と対応する際は、認知症に伴う認知機能低下があることを正しく理解していることが必要です。

社会全体が認知症に対して偏見をもたず、誰にでも発症しうる身近な問題であるという認識をもつことが大切です。認知症の人やその家族が、認知症という困難を抱え困っていることを理解し、認知症を抱える人が安心して生活できるように支援していきましょうという姿勢が重要です。

7つの対応ポイント

① まずは見守る

認知症と思われる人に気付いたら、一定の距離を保ち、さりげなく様子を見守ります。不用意に近づいたり、ジロジロ見たりするのは禁物です。

② 余裕をもって対応する

こちらが困惑や焦りを感じていると、相手にも伝わって動揺させてしまいます。余裕をもって自然な笑顔で応じましょう。

③ 声をかけるときは1人で

複数で取り囲むと相手に恐怖心を与える原因となるので、できるだけ1人で声をかけます。

④ 後ろから声をかけない

一定の距離で相手の視野に入ったところで声をかけます。唐突な声かけは禁物です。

「何かお困りですか?」「お手伝いしましょうか?」「どうなさいました?」などと声をかけます。

⑤ 相手と目の高さを合わせて

相手が小柄な場合は、姿勢を低くして目の高さを同じにして対応します。

⑥ おだやかに、はっきりたやさしい口調で

高齢者は耳が聞こえにくい人が多いので、ゆっくりとはっきりした口調を心がけます。早口、大声、甲高い声でまくしたててはいけません。方言でコミュニケーションをとることも大切です。

⑦ 相手の言葉に耳を向けて ゆっくり対応する

認知症の人は急かされたら、同時に複数の問いに答えることが苦手です。相手の反応を伺いながら会話し、たとえば優しい言葉でも、相手の言葉に耳を傾け、何をしたいのかを一つ一つ確認しながら会話していきます。

◎ 問い合わせ先

長島町地域包括支援センター
(役場保健衛生課内)
☎ (86) 1153 「直通」

緊急医療情報キットで災害に備えを

町では、災害時に備えた「緊急医療情報キット(ながしまあんしんキット)」を交付します。「緊急医療情報キット」は情報シート、保険証などの写しを専用容器に入れ冷蔵庫などに保管し、救急活動に役立てることを目的としています。

交付対象者は次のとおりです。交付を希望する人は問い合わせください。

- ① 長島町災害時要援護者台帳に記載されている人
- ② 65歳以上で一人暮らしの人
- ③ 65歳以上のみの世帯の人
- ④ その他必要と認められる人

◎ 問い合わせ先

長島町地域包括支援センター
(役場保健衛生課内)
☎ (86) 1153 「直通」
役場町民福祉課
☎ (86) 1157 「直通」



→ 保険証の写しなどが保管できる専用容器

◇ 認知症の人への対応の心得 ◇

3つの「ない」

- ① 驚かせない
- ② 急がせない
- ③ 自尊心を傷つけない